



9月度の御書

しじょうきんごどのごへんじ
「四条金吾殿御返事」
ぼんのうそくぼだいごしょ
(煩惱即菩提御書)

御文

法華經の信心を・とをし給へ。

火をきるに・やすみぬれば火を
えず、強盛の大信力をいだして
法華宗の四条金吾・四条金吾と
鎌倉中の上下万人乃至日本国の
一切衆生の口にくたはれ給へ

(御書1-17ページ)

意味

法華經の信心を貫き通していき
なさい。火を起すのに、と中で
休んでしまったら火を手に入れる
ことはできません。強盛の大信力
を出して、「法華宗の四条金吾、
四条金吾」と、鎌倉中の人たちを
はじめとして、日本中の人々の口
にくたわられていきなさい。

「あと一歩！」の努力が自分を成長させる

やあ、みんな！ ボクは、ライオン博士のキング君だよ。
今日は初めにクイズをするよ。
ここに「木の板」と「木の棒」があります。「火」を起
こすには、どうすればいいでしょう？

「ライターを使う！」「マッチを使う！」……うんうん。そ
うだね。「木」は燃えるから、ライターやマッチを使えば、
火をつけることができるね。

みんな、正解だよ～！

ところで、こんな方法もあるのを知っているかな？

木の板の上に木の棒を立てて回転させて、素早くこする。
しばらくこすり続けると、「まさつ」という現象が熱を生み
出して、やがて火がつくんだ。昔の人は、こうやって火を
起こしていたんだよ。

「いったい、木のどこに火がかくれているの？、って考え
ると、すごく不思議だけど、一生けんめいに「こすり続ける」
ことで、木の中から、火を生み出すことができるんだよ。

反対に、こするのをと中でやめれば、絶対に火はつかな
いんだ。

今回の御文で日蓮大聖人は、この「火」の例えを通して、
信心も同じだと教えられているよ。

お題目をあげる時に大切なのは、御本尊を信じて、ね
ばり強く祈り続けること。せっかく祈っていても、と中でや
めてしまうと、目標や願いをかなえることはできないんだ。
大切なのは、と中で思うようにいかないことがあっても、
「もう少し！」「あと一歩！」と、力をふりしぼり、祈りぬ
いていく「強盛の大信力」なんだよ。

「強盛の大信力」でお題目を唱えていく人は、自分の中
からなやみに負けない「勇気」を呼び起こすことができる
んだ。

そして、この「負けない勇気」、「あきらめない勇気」をもっ
て、目の前のことに挑戦する中で、ボクたちは、今よりも
強く明けて、思いやりにあふれた自分に成長していける
んだよ。

池田先生は語られているよ。

『ありのまま』になやみ、祈り、また胸をはって挑戦し
ていく——そうすることで、自分の心がみがかれる。心の
中の宝物が光っていく」

お題目で自分の「いいところ」をたくさん光らせながら、
まわりの家族や友だちにも、希望の笑顔を広げていこう～！